

2026年3月8日(日)

日本キリスト教団 <sup>きゅうほうぎょうかい</sup>久宝教会

第68巻第47号(通算3484号)

教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください  
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう  
週報

教会標語

<sup>ちい</sup>小さくされている<sup>ひと</sup>人を  
<sup>たいせつ</sup>大切にする<sup>きょうかい</sup>教会



ホームページ「久宝教会」  
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>

【連絡先(牛田)】090-9161-4027

[kyuho-church@koinonia.or.jp](mailto:kyuho-church@koinonia.or.jp)

丈夫な人に医者はいらないが、具合の悪い人には必要なのだ。実に、私が来たのは、「正統派の人」を招くためではなく、「道をふみはずした者」を招くためである。(マルコによる福音書2:17)

<sup>じゅなんせつ</sup>レント(受難節)

<sup>だい</sup>第3主日礼拝

《本日の<sup>ほんじつ</sup>礼拝は、インターネットでの<sup>れいはい</sup>録画配信のみです。

10時半より<sup>じはん</sup>配信いたしますので、ホームページにて  
どなたでも<sup>しちよう</sup>ご視聴いただけます。》

<sup>まね</sup>招きの<sup>ことば</sup>詞

<sup>てがみ</sup>テモテへの手紙II

<sup>しょう</sup>1章 <sup>せつ</sup>9-10a節

<sup>しょうとう</sup>消灯の<sup>ことば</sup>詞

<sup>せい</sup>聖<sup>しょ</sup>書

マルコによる<sup>ふくいんしょ</sup>福音書

<sup>しょう</sup>8章 <sup>せつ</sup>27-33節

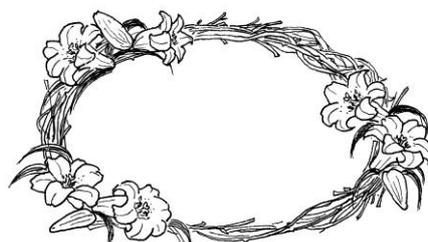
メッセージ 「あなたも<sup>ひとり</sup>キリストの一人」

<sup>うしだ</sup>牛田 <sup>ただし</sup>匡 <sup>ぼくし</sup>牧師

<sup>しゆくふく</sup>祝<sup>ふく</sup>福

\* 今週は「<sup>こんしゅう</sup>献げ物(<sup>さきげもの</sup>献金)」は、<sup>けんきん</sup>集めません。

<sup>じしゅういこう</sup>次週以降にお<sup>さき</sup>献げいただくか、<sup>ゆうびんふりかえ</sup>郵便振替を<sup>りよう</sup>ご利用ください。



招きの詞 テモテへの手紙Ⅱ 1章 9-10a 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

<sup>9</sup>神が私たちを救い、聖なる招きによって呼び出してくださったのは、私たちの行いによるのではなく、ご自身の計画と恵みによるのです。この恵みは、永遠の昔にキリスト・イエスにあって私たちに与えられ、<sup>10a</sup>今や、私たちの救い主キリスト・イエス<sup>b</sup>が現れたことで明らかにされたものです。

(脚注 b: 直訳「の顕現によって」)

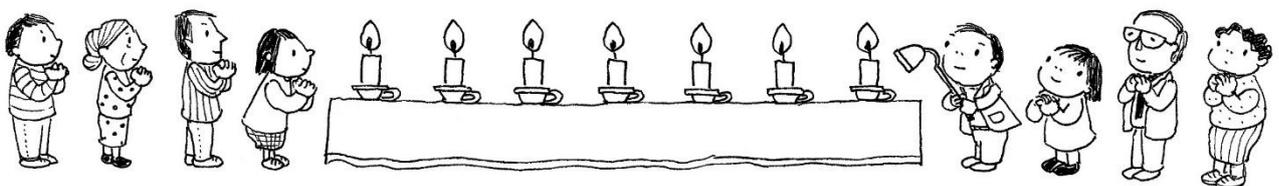
消灯の詞 (参照: マタイによる福音書 26章 69-75 節)

ペトロが 3 度もイエス様のことを知らないと言ったことを思いながら、このろうそくを消します。

聖書 マルコによる福音書 8章 27-33<sup>せつ</sup>節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

<sup>27</sup>イエスは、弟子たちとフィリポ・カイサリアの村々へ出かけられた。その途中、弟子たちに、「人々は、私のことを何者だと言っているか」とお尋ねになった。<sup>28</sup>弟子たちは言った。「洗礼者ヨハネだと言っています。ほかに、エリヤだと言う人、ほかに、預言者の一人だと言う人もいます。」<sup>29</sup>そこでイエスがお尋ねになった。「それでは、あなたがたは私を何者だと言うのか。」ペトロが答えた。「あなたは、メシアです。」<sup>30</sup>イエスは、ご自分のことを誰にも話さないようにと弟子たちを戒められた。

<sup>31</sup>それからイエスは、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちによって排斥されて殺され、三日の後に復活することになっている、と弟子たちに教え始められた。<sup>32</sup>しかも、そのことをはっきりとお話しになった。すると、ペトロはイエスを脇へお連れして、いさめ始めた。<sup>33</sup>イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペトロを叱って言われた。「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人のことを思っている。」



## 《先週のメッセージより》2026年3月1日 レント（受難節）第2主日礼拝

### 「命の道を歩む」

牛田匡牧師

聖書 マルコによる福音書 3章 10-12, 20-35節

イエス様に癒してもらおうと病苦に悩む多くの人々がイエス様のもとに押し寄せました。その中には異邦人や異教徒たちも多数含まれていました。当時の文化的には、病気や障がいの人たちには近づかないのが常識でした。それこそ「悪霊や罪のせい」だとさえ考えられていたからです。しかし、イエス様はそれらの人々を避けることなく、自ら手当てをしました。そのような姿勢は、宗教的指導者であった律法学者たちからは、「悪霊に取り憑かれています、悪霊の力で悪霊を追い出しているに違いない」と言われるほどでした。そのような批判に対して、イエス様は「聖霊を冒瀆する者は永遠に赦されない」と言います。これは全ての命の中に聖霊が生きて働かれているにもかかわらず、ただ律法を守ることができない社会的状況にある人たちを皆、一方的に「罪人」と呼び、断罪するような律法学者たちの言葉と振る舞いこそが「聖霊を冒瀆していることだ」というイエス様の憤りの込められた厳しい言葉でした。それだけではなく、イエス様は自分の家族や親族からも「気が変になっている」と思われていて、取り押さえに来られたことさえありました。最も近くにいて理解してほしい身内の人たちからも理解されない苦しみ……。しかし、イエス様は「神の御心を行う人は誰でも、私の兄弟、姉妹、また母なのだ」と言われました。「神の御心を行う」こと、つまり人が人として大切にされていない状況の中で、人を人として大切にすること、そこにこそ命の神が紛れもなく共におられるということに、イエス様は信頼して、身をもって歩まれたのだと思います。

人が人の上に立ち、人を消費し浪費し、そして時に人の命を奪うことすら、当たり前であって、それが「良し」とされる世の中で、それらを否定することは、非常識であり、「気が変になっている」とすら言われかねないことです。そして実際、イエス様はそれが故に、身内からも理解されることなく、十字架へと続く茨の道を歩むことになりました。けれども、同時にその道は十字架で終わりではなく、その後へと続いていく命の道でもありました。また新たな戦争が始まりました。多くの情報が交錯し、どの道を進めばよいのかが分かりづらくなっている現代において、私たちは道を誤ることがないように、イエス様の後に従って、真実の命に至る命の道へと、今日も歩みを進めて参ります。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 2026年3月1日 レント（受難節）第2主日礼拝  
礼拝出席 大人7人 献金 大人6,200円 中継視聴者数17回 感謝

◎次週 2026年3月15日（日）<sup>レント</sup>受難節第4主日礼拝

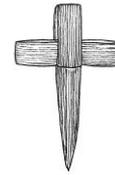
招きの詞 詩編 27編 8-10節

聖書 マルコによる福音書 9章 2-13節

メッセージ「神は留まっておられない」牛田匡牧師

賛美歌 21-306 (©P.D.)、21-303 (©P.D.)、「風と歌う」(©JASRAC)

今年のレント（受難節・四旬節）は、2月18日（水）から4月4日（土）です。  
レントの期間は、イエス様の生涯や十字架の意味、イエス様に従うとはどういうことかについて考える時です。



### ◎お知らせ

- ・これまでの「週報」や「メッセージ（全文）」はホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分をYouTubeでご覧いただくことも可能です。
- ・本日の午後、15時～17時にかけて、大阪福島教会にて、大阪教区「心なごむ会」主催の公開講演会「安心の源 ～不安と孤独を越えさせるもの～」が開催されます。参加費は300円です。事前申込不要です。どなたでもご参加ください。
- ・3月14日（土）9時～15時半にかけて、大阪教区部落解放委員会主催の「水平社博物館フィールドワーク」が開催されます。2022年に全国水平社創立100周年を記念してリニューアルされた水平社博物館を訪れます。9時に東梅田教会に集合して、マイクロバスで出発し、10時15分にも近鉄・大和高田駅ロータリーで集合します。その後、水平社博物館に到着・見学、昼食の後、14時に博物館出発、15時半に東梅田教会到着、解散です。参加費は1,000円です。
- ・3月15日（日）15時～17時にかけて、東梅田教会にて大阪教区社会委員会主催の公開講演会「大阪・関西万博とは何だったのか ―メガイイベントの暴走に抗いつづけるために」が開催されます。講師は原口剛さん（神戸大学教授）です。昨年の万博は膨大な赤字を生み出し、自然にダメージを与え、建設業者への未払い問題も引き起こし、何も解決していないにもかかわらず、メディアでは「万博は成功した」というイメージが垂れ流され続けています。同じ過ちを繰り返さないためにも改めて学びましょう。事前申込不要で、参加無料です。どなたでもご参加ください。

### ◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
3/15	牛田匡牧師	
3/22	牛田匡牧師	おにぎり支援
3/29	牛田匡牧師	（受難週）誕生者祝福式
4/5	牛田匡牧師	イースター礼拝・ユーカリスト 愛餐会・教会を考える会

## 大阪・関西万博とは 何だったのか

―メガイイベントの暴走に抗いつづけるために



講師  
原口 剛 さん  
神戸大学教授

3/15 日  
15:00～17:00

会場：  
日本基督教団  
東梅田教会  
住所 〒530-0055  
大阪市北区野崎町9-1

事前予約不要  
参加無料

驚くべきことに、メディアや街中では、大阪・関西万博は「成功」したというメッセージが溢れています。万博が膨大な赤字を生みだし、自然にダメージを与え、建設業者への未払い問題までも引き起こしたにもかかわらず、です。  
私たちは、なし崩し的に万博の成功イメージが流布されている現状に、抗わねばなりません。万博の問題は終わったわけではないし、終わらせてはなりません。万博のあとには、カジノリゾートの建設が控えています。また、2026年には愛知・名古屋陸上、27年には横浜国際競技場と、メガイイベントのプロジェクトはまだ脱けられようとしているのです。  
私たちは、これ以上かじり通ちを繰り返すわけにはいきません。そのためにも、大阪・関西万博とは何だったのかを考え、共有したいと思います。

主催：日本基督教団 大阪教区社会委員会  
問い合わせ先：ucci.osaka.shakai@gmail.com